

あいち病害虫情報 最新情報

令和6年11月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

気温は高い見込み

名古屋地方气象台11月14日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並みの見込みです。

ハスモンヨトウ、オオタバコガに引き続き注意しましょう

フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ及びオオタバコガの直近1か月の誘殺数は、平年に比べて多く、夏以降多い状況が続いています。11月上旬のハクサイほ場の巡回調査でも、ハスモンヨトウの寄生株率は過去10年で最も高くなっています。

これらチョウ目害虫は薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避けて防除しましょう。また、周辺ほ場への発生源とならないよう、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。施設への飛び込みにも注意しましょう。気象予報によれば、ハスモンヨトウ及びオオタバコガの活動に適した、平年より高い気温が続くと見込まれます。本日発表の「ハスモンヨトウ・オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

ハクサイ、キャベツの病害

ハクサイの軟腐病が発生しているほ場があります。秋季が温暖な年は本病の発生が多くなる傾向にあります。強風雨の後は速やかに薬剤防除しましょう。キスジノミハムシやチョウ目害虫などの食害痕からも感染しやすいため、害虫を防除するとともに、発病株及び残さはほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。

キャベツ菌核病が発生しているほ場があります。被害株や残渣は地中深くに埋めるなど、適切に処分しましょう。

トマトキバガの発生に注意しましょう

県内各地のフェロモントラップで誘殺が続いており、一部地域では農作物の被害が確認されています。9月9日発表の「令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号」を参考に、被害の特徴を把握し、見つけ次第捕殺と薬剤散布を行うとともに、発生拡大を防ぐため、被害葉などは適切に処分しましょう。また、ほ場での被害を見つけた場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

トマト黄化葉巻病及び黄化病、キュウリ退緑黄化病及び黄化えそ病

タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（TYLCV）とキュウリ退緑黄化病（CCYV）を媒介し、コナジラミ類はトマト黄化病（ToCV）ウイルスを媒介します。10月下旬の巡回調査において、コナジラミ類の発生量はやや多くなっており、注意が必要です。媒介昆虫の侵入を防ぐため、防虫ネットの破損は補修するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。11月1日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第11号」及び10月4日発表の「コナジラミ類情報第2号（トマト）」を参考に防除しましょう。

ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病（MYSV）を媒介します。10月下旬の巡回調査において、ミナミキイロアザミウマの発生量は多くなっています。11月1日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第1号（キュウリ・ナス）」を参考に、適切に防除しましょう。

スクミリンゴガイの対策をしましょう（水稻）

7月下旬の巡回調査において、スクミリンゴガイの発生ほ場率は過去10年間で最も高い状況でした。発生が見られたほ場では、次作に向けて冬期対策を実施しましょう。詳細は、本日発表の「スクミリンゴガイ情報第2号（水稻）」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820